

平成 17 年 3 月 1 6 日

電源開発株式会社

住友商事株式会社

Ｊパワー・住友商事によるフィリピン国 C B K 発電所の買収について

- Jパワー・住友商事ともに初の水力海外 IPP

電源開発株式会社（社長 = 中垣喜彦、以下「J パワー」）は、住友商事株式会社（社長 = 岡素之、以下「住友商事」）とともに、設立したオランダ法人（出資比率各 50%）を通じて、フィリピン共和国ラグナ州にあるシービーケー（CBK: Caliraya, Botocan, Kalayaan 3 発電所の総称）発電所（総出力 72.8 万 kW）を所有するシービーケー・パワー社（CBK Power Company Ltd.）および発電所の運転管理を行っているカラヤン・パワー・マネジメント社を買収することとしました。

シービーケー・パワー社は、インプサ社（アルゼンチン国）とエジソン・ミッション・エナジー社（以下「EME 社」：米国）が 50%ずつ所有するフィリピンの会社で、カリラヤ（一般水力、2.26 万 kW）・ボトカン（一般水力、2.08 万 kW）・カラヤン（揚水、68.46 万 kW）発電所を建設、2004 年より完工・営業運転しているものでフィリピン国营電力公社（National Power Corporation）に売電しています。また、運転管理については同様に両社が出資しているカラヤン・パワー・マネジメント社が行っています。



（カラヤン揚水発電所）

インプサ社・EME 社の両社は、海外展開戦略の見直し等から同社の売却を検討しておりましたが、同発電所が安定的に運転されていること、25 年間の売電契約により相応の収益が見込めること等から J パワーは住友商事をパートナーとして、今般、両社の全権益を買い取ることにしました。

既に EME 社の持ち分 50%の権益を取得し、今春を目処に残りのインプサ社の持ち分を取得する予定です。また、買収金額は両社合わせて総額約 230 億円を見込んでおり、その内約 100 億円については国際協力銀行他からの融資を予定しています。なお、当該融資は、国際協力銀行にとって、日本企業による海外 IPP 権益取得をプロジェクトファイナンスベースで支援する最初のケースとなります。

完全買収後は、シービーケー・パワー社の意思決定機関である経営委員会に J パワーと住友商事から各 2 名を派遣し、同社の経営を行います。また、発電所の運営につきましても、J パワーから最高経営責任者と運転保守責任者を、住友商事から総務責任者を派遣し、マネージメントのすべてを日本企業で占める予定です。

J パワーは上記フィリピン国営電力公社向けコンサルタントサービス提供という形態で30年近くの実績を有していますが、フィリピンにおけるIPP事業は1998年のレイテ地熱発電所(4.9万kW:出資割合10%)について2件目となります。今回の大型案件買収により、国別の出資規模としてはタイに次いで2番目の規模となります。

住友商事は、アジアにおいては、これまで新規IPP開発案件を中心に取り組んできましたが、本件はアジアで初のIPP買収案件となります。今後もアジアにおける大型IPP事業への参画を積極的に進めてまいります。

CBK 発電所概要

発電所名	カリラヤ水力発電所	ボトカン水力発電所	カラヤン揚水発電所	
所在地	ラグナ州ルンバン	ラグナ州マハイハイ	ラグナ州カラヤン	
形式	ダム水路式(一般)	ダム水路式(一般)	ダム水路式(揚水)	
出力	2.26万kW (1.13万kW×2)	2.08万kW (1万kW×2、800kW)	I期33.6万kW (16.8万kW×2)	II期34.86万kW (17.43万kW×2)
運開日	2002.12(改修)	2003.6(改修)	2002.3	2004.1

以 上

[添付資料]

- ・ 発電所位置図

お問い合わせ先			
Jパワー	広報室	山田・吉永	03 - 3546 - 2211(代表)
住友商事	広報部	上田	03 - 5166 - 3096